

メモリアルデーブレンディング特別集会
メッセージアウトライン

主題：

花嫁の用意

標語：

最も純粹で、最も聖なる意味で、
聖書は宇宙的な夫婦のロマンスです。
すなわち、神はキリストの中で花婿であり、
神の贖われた人は花嫁です
——主の回復の目標。

回復における主の主要な働きは、
彼の真実な働きであり、
わたしたちを用意して彼の栄光の花嫁とならせます。
エペソ第 5 章 26 節で語られている継続的な性情の聖別がなければ、
花嫁の用意が整えられる道はほかになく、
啓示録第 19 章 7 節から 9 節が成就される道もほかはありません。

新約聖書で用いられている「円熟」という言葉は、
信者たちが再生の時に受けたキリストの命の中で完全に成長し、
成就されるということを指しています。

主の回復は、キリストの花嫁の用意を整えるためです。
究極的に、わたしたちは同形化されて、
すばらしいシュラムの女となります。
シュラムの女は、ソロモンの複製として、
キリストの配偶者、花嫁である
新エルサレムの最大で究極的な型です。

花嫁——主の回復の目標

聖書：啓 19:7-9. ヨハネ 1:29. 3:29. 雅 1:2-3. 8:14

I. 最も純粹で、最も聖なる意味で、聖書は宇宙的な夫婦のロマンスです。すなわち、神はキリストの中で花婿であり、神の贖われた人は花嫁です——ヨハネ 3:29. マタイ 25:6. 啓 19:7. 21:2. 22:17：

A. 神は何世紀にもわたって、人とのロマンスを持ってきました。神が人を創造した目的は、配偶者を持つことでした——創 1:26。

B. 神は愛する方であり、愛する方としてのご自身のかたちに人を創造しました。この事が意味するのは、神がわたしたちを創造したのは、わたしたちが彼を愛するためであるということです——マルコ 12:30. エペソ 3:14-19。

C. 全聖書は神聖なロマンスです。雅歌は、このロマンスの要約です——雅 1:2-3. 8:14：

1. 聖書はロマンチックな書であり、わたしたちと主との関係は、ますますロマンチックになるべきです。

2. もしわたしたちと主イエスとの間に何のロマンスもなければ、わたしたちは宗教的なクリスチャンであって、ロマンチックなクリスチャンではありません——雅 1:2-3。

3. 「ロマンス」は神聖な求愛の言葉です。わたしたちは聖書の中で、神がわたしたちの愛を追い求めていることを見ます——Ⅱコリント 11:2。

4. 雅歌はロマンスであるだけでなく、極めてすばらしいロマンスです。

D. わたしたちが愛するものは何であれ、わたしたちの心全体、さらにはわたしたちの全存在でさえ、その愛するものの上に置かれ、またそれによって占有され、所有されます——Ⅰテモテ 6:10-11. Ⅱテモテ 3:2-4. 4:8, 10 前半. テトス 1:8：

1. 「神を愛するとは、わたしたちの全存在——霊、魂、体を、心、魂、思い、力と共に（マルコ 12:30）——完全に彼の上に置くことを意味します。これは、わたしたちの全存在を彼に占有していただき、わたしたちの全存在が彼の中で失われることです」（Ⅰコリント 2:9 のフットノート 3）。

2. 主イエスを愛するとは、彼を評価し、わたしたちの存在を彼に向け、彼に開き、彼を享受し、彼に第一位を与え、彼と一になり、彼を生き、彼になることです——マタイ 26:6-13. Ⅱコリント 3:16. マルコ 12:30. コロサイ 1:18.

Ⅰコリント 6:17. ピリピ 1:20-21. 詩歌 366 番、2 節。

Ⅱ. 啓示録第 19 章 7 節から 9 節は、花婿としてのキリストを明らかにしています：

A. 小羊の婚姻は、神の新約エコノミーの完成の結果です。神の新約エコノミーとは、彼の法理的な贖いを通して、また彼の神聖な命における有機的な救いによ

って、キリストのために花嫁、すなわち、召会を得ることです——創 2:22. ローマ 5:10. 啓 19:7-9. 21:2, 9-11。

B. 啓示録第 19 章のキリストの花嫁は、すべての勝利者から成っています——啓 21:7-9. 参照、創 2:22. マタイ 16:18。

C. すべての勝利者は、千年の間、その開始の新鮮な段階において、キリストの花嫁としての新エルサレムとなります——啓 19:7。

D. 最終的に、信者たちはみな勝利者たちに連なって、新エルサレムを満ち満ちた程度にまで究極的に完成し、完全なものとし、新天新地において、キリストの妻となり、永遠に至ります——21:2, 9-11。

Ⅲ. 花嫁は主の回復の目標です——啓 19:7-9 :

A. 「小羊の婚姻の時が来……た」——19:7 後半 :

1. ヨハネは彼の福音書の開始において、小羊と花婿について語っており、啓示録においては、小羊の婚姻の時が来たと言っています——ヨハネ 1:29. 3:29。

2. 大多数の聖徒たちの携え上げ（啓 14:16. I テサロニケ 4:15-16）と、褒賞を与えるキリストの裁きの座での裁き（啓 11:18. II コリント 5:10）の後、すぐに続く出来事には小羊の婚姻が含まれているはずです（啓 19:7 中） :

a. わたしたちはキリストの裁きの座で褒賞を受けるなら、婚宴にあずかります。

b. もし褒賞を受けず、主によって良しとされないなら、わたしたちは滅びることはありませんが、I コリント第 3 章 15 節で記述されているように損失を被るでしょう。

B. 「彼の妻は用意を整えた」——啓 19:7 後 :

1. 「彼の妻」は召会（エペソ 5:24-25、31-32）、キリストの花嫁（ヨハネ 3:29）を指しています。

2. 啓示録第 19 章 8 節から 9 節によれば、妻（キリストの花嫁）は、千年期の間の勝利を得た信者たちだけから成っています。第 21 章 2 節の花嫁（妻）は、千年期の後のすべての救われた聖徒たちから成っており、永遠に至ります。

3. 花嫁の用意は、勝利者の命における円熟にかかっています——19:7. ヘブル 6:1. ピリピ 3:12-15. エペソ 4:13。

4. わたしたちは、金としての父なる神と、真珠としての子なる神と、宝石としての霊なる神とをもって、キリストの花嫁としての新エルサレムを飾り、究極的に完成する必要があります——啓 21:2, 19 前半. I コリント 3:12. 雅 1:10-11。

5. 勝利者は、分離した個人ではなく、団体の花嫁です。

6. 勝利者は、命において円熟しているだけでなく、一人の花嫁として共に建造されています。

C. 「彼女は輝く清い細糸の亜麻布の衣を着ることを許された。その細糸の亜麻布の衣は、聖徒たちの義である」——啓 19:8 :

1. 「清い」は性質を指しており、「輝く」は表現を指しています。
2. 「義（複数）」と訳されたギリシャ語は、「義なる行ない」とも訳することができます。
3. 義（複数）は、わたしたちが救いのために受けた義を指しているのではありません——Ⅰ コリント 1:30。
4. わたしたちが救いのために受けた義は客観的であり、わたしたちが義なる神の要求を満たすことができるようにしますが、啓示録第 19 章 8 節の勝利を得た聖徒たちの義は主観的であり（ピリピ 3:9）、彼らが勝利を得たキリストの要求を満たすことができるようにします。
5. こういうわけで、細糸の亜麻布は、わたしたちの勝利を得る命、勝利を得る生活を示しています。それは、わたしたちの存在から生かし出されるキリストです。

D. 「小羊の婚宴に招かれている者は幸いである……これらは神の真実な言である」——啓 19:9 :

1. 小羊の婚宴 (marriage dinner) は、結婚の婚宴 (wedding feast)、すなわち、千年王国であって、それは神の目には一日のようです。それは勝利を得た信者たちにとって褒賞となります——9 節、マタイ 22:2, 11-14. Ⅱ ペテロ 3:8。
2. キリストの婚宴に招かれるのは幸いなことであり、これは勝利を得た信者たちを、千年期の享受の中へと導き入れます——啓 19:9。
3. 啓示録第 19 章 9 節の小羊の婚宴 (marriage dinner) は、マタイ第 22 章 2 節の婚宴 (wedding feast) です。それは勝利を得た信者たちに対する褒賞です:
 - a. 召される（招かれる）とは、救いを受けることです（ローマ 1:7. Ⅰ コリント 1:2. エペソ 4:1）。選ばれるとは、褒賞を受けることです。
 - b. 勝利者たちだけが、彼らに対する褒賞である婚宴に招かれます。すべての救われた者たちが婚宴にあずかるわけではありません。
 - c. 小羊の婚宴に招かれる勝利を得た信者たちは、小羊の花嫁でもあります——啓 19:8-9。